

2025年度 自己評価総括表

ぽかぽかステップテレーズ

○事業所名	ぽかぽかステップテレーズ(重症心身・医療ケア児 児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2026年2 月15 日 ～ 2026年3 月15 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	2026年2 月15 日 ～ 2026年3 月15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	2名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4 月1 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴設備、運動室や屋上利用が可能である。またこども園と同施設内であることから給食やおやつを利用者に合わせた形態で提供することができる	安全に留意して入浴は2名体制、活動は1対1で配置して実施している。経口摂食・運動・日常生活動作などには必要に応じてST・PT・OTが介入し看護師と情報共有をしたうえで個々の子どもに合わせた支援を行っている	子どもの発達に合わせた支援が一貫できるように職員間の共有化を充実させていく。また子どもが日頃利用しているリハビリセラピストや事業者などの関係機関とも連携を図り、ご家庭での関わりなども方向性を合わせていく
2	太田ステージやアナログゲーム、感覚統合遊具、季節のイベントや製作活動等を取り入れながら、療育支援を行っている	こども園と同施設内であることや、ステップ大和田教室と同フロアであることからインクルーシブを意識した活動をしている。また、組織全体で共有化されているプログラムを取り入れる工夫やテレーズソラーレ利用の子どもどうしの交流を意識した支援にあたっている。	安全や楽しさを主軸に職員個々の療育スキルがさらに高まるように情報の共有化やプログラムの充実を図っていく。
3	提供した支援内容をできる限りその日の内に、子どもの取り組みの画像等を含めてわかりやすくお知らせしている(サービス提供記録の提供)。また、SNSを通じて支援内容等を広く公開している。	支援目的や支援教材など、できるだけ細かく提供内容をお知らせしている。また、支援内容等をSNSを通して都度更新して公開している。さらにどのような目的でその支援を実施し、どのような成長を促し、どのような変化が見られているかなどをお伝えしている。	取り組んだ内容(事実)の記載とともに、取り組みの結果による子どもの変化や継続的に取り組むべき療育課題等の共通認識が持てるようにしていく。またご家族とも共有をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
--	--	-------------------	----------------------

1	事業所の運営や子ども一人ひとりの支援について職員間で共有する機会が少ない。	出勤時間が時間差であったり、常勤の支援員が未充足であるため、支援に入る時間を確保することが最優先になっている	シフト表上で支援員の情報共有や意見交換をできる日を設定したり、少しの時間であっても情報共有できる時間帯を作る。また、時間をおいて出勤となった支援員も情報共有や意見交換が出来るように、個別の子どもへの支援ファイルやマニュアルを充実させていく
2	保護者の方に来ていただき直接療育の様子を見ていただく機会が少ない。	現場の体制などにより、保護者の方に療育支援の内容を見ていただく機会が得られにくくなっている。	年間計画の中で、そのような機会を作ることができるように見通しを持った計画を立てていく。
3	送迎体制が不十分のため、決まった支援員が送迎に携わらなければならない。そのため支援員が少なくなる時間帯がある	送迎専属の職員の配置はしているものの、対象地域が広いことと複数事業所運営の中で送迎体制を組んでいるため不十分な状態となっている。	送迎専属の職員配置が求められる。
4	非常災害時や安全管理に関する取り組みや保護者に対する情報発信が十分行われていない。	日常的な安全管理が不十分であり、また非常時における訓練なども十分行われていない。	年間計画の中で、見通しを持った計画を立てて、保護者に対しても情報発信の機会を作っていく。

2025年度 自己評価総括表

ぽかぽかステップソーラーレ

○事業所名	ぽかぽかステップソーラーレ(重症心身・医療ケア児 放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2026年2 月15 日		～ 2026年3 月15 日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2026年2 月15 日		～ 2026年3 月15 日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	2名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4 月1 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴設備、運動室や屋上利用が可能である。またこども園と同施設内であることから給食やおやつを利用者に合わせた形態で提供することができる	安全に留意して入浴は2名体制、活動は1対1で配置して実施している。経口摂食・運動・日常生活動作などには必要に応じてST・PT・OTが介入し看護師と情報共有をしたうえで個々の子どもに合わせた支援を行っている	子どもの発達に合わせた支援が一貫できるように職員間の共有化を充実させていく。また子どもが日頃利用しているリハビリセラピストや事業者などの関係機関とも連携を図り、ご家庭での関わりなども方向性を合わせていく
2	太田ステージやアナログゲーム、感覚統合遊具、季節のイベントや製作活動等を取り入れながら、療育支援を行っている	こども園と同施設内であることや、ステップ大和田教室と同フロアであることからインクルーシブを意識した活動をしている。また、組織全体で共有化されているプログラムを取り入れる工夫やテレーズソーラーレ利用の子どもどうしの交流を意識した支援にあたっている。	安全や楽しさを主軸に職員個々の療育スキルがさらに高まるように情報の共有化やプログラムの充実を図っていく。
3	提供した支援内容をできる限りその日の内に、子どもの取り組みの画像等を含めてわかりやすくお知らせしている(サービス提供記録の提供)。また、SNSを通じて支援内容等を広く公開している。	支援目的や支援教材など、できるだけ細かく提供内容をお知らせしている。また、支援内容等をSNSを通して都度更新して公開している。さらにどういう目的でその支援を実施し、どのような成長を促し、どのような変化が見られているかなどをお伝えしている。	取り組んだ内容(事実)の記載とともに、取り組みの結果による子どもの変化や継続的に取り組むべき療育課題等の共通認識が持てるようにしていく。またご家族とも共有をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
--	--	-------------------	----------------------

1	事業所の運営や子ども一人ひとりの支援について職員間で共有する機会が少ない。	出勤時間が時間差であったり、常勤の支援員が未充足であるため、支援に入る時間を確保することが最優先になっている	シフト表上で支援員の情報共有や意見交換をできる日を設定したり、少しの時間であっても情報共有できる時間帯を作る。また、時間をおいて出勤となった支援員も情報共有や意見交換が出来るように、個別の子どもへの支援ファイルやマニュアルを充実させていく
2	保護者の方に来ていただき直接療育の様子を見ていただく機会が少ない。	現場の体制などにより、保護者の方に療育支援の内容を見ていただく機会が得られにくくなっている。	年間計画の中で、そのような機会を作ることができるように見通しを持った計画を立てていく。
3	送迎体制が不十分のため、決まった支援員が送迎に携わらなければならない。そのため支援員が少なくなる時間帯がある	送迎専属の職員の配置はしているものの、対象地域が広いことと複数事業所運営の中で送迎体制を組んでいるため不十分な状態となっている。	送迎専属の職員配置が求められる。
4	非常災害時や安全管理に関する取り組みや保護者に対する情報発信が十分行われていない。	日常的な安全管理が不十分であり、また非常時における訓練なども十分行われていない。	年間計画の中で、見通しを持った計画を立てて、保護者に対しても情報発信の機会を作っていく。